

巢立ちゆく

先生へ



沼館 正尾

就学前教育が強調され、幼稚園の必要性が一般の認識を深めてきて、この部門に比較的消極的であった文部省が、最近幼稚園の拡充案を立てたことは、遅まきながら、日本の幼児教育の将来に大きな曙光を与えるものと申すべきであります。

このような時期に学窓を出て、幼児教育の実際に巢立たれる皆様の前途は洋々たるものがあります。

戦争前の幼稚園教育の実際、戦争中の絶無に等しかった幼児教育、そのような時代に幼稚園の教育・運営に携ってきた私共から見ると、恵まれた社会情勢の中で生まれてゆく若い先生方に限

りない祝福を贈りたいと存じます。

改めて申すまでもなく、幼稚園教育の中心は先生であります。設備、環境ももちろん大切なことは言うまでもないことでありますが、肝心な先生にその人を得ない場合は、どのような環境や設備があっても、結局「無」に等しいといっても過言ではないと思います。

新たに幼稚園教育に巢立たれる先生方は、この責任を自覚されて、使命の達成に力強く踏み出していきたいと存じます。

その先生方へ私の経験から幼稚園の先生としての心構えについて思いついた事を記して御参考に供したいと思います。

健康であること

どこの職場でも、健康の大切なことは申すまでもありませんが、殊に純真な潑刺とした園児を指導する先生が、暗い影やじめじめした気持では健全な教育はできません。

明るい、生き生きした気持を絶えず持ちつづける為には、先ず健康でなければなりません。

朝、あの顔、この顔を思い浮かべて、はり切って起きられるような、また個人差の甚だしいいろいろの子どもに爽やかな気持で接しられることのできる健康さが必要であると思います。

しかし、あまり張り切りすぎて、明日に疲れを残し健康を害することのないように、十分に注意されることが大切であります。

先生の欠勤とか遅刻などは、子どもに不安を与えることが大きいものです。十分健康に注意していつも子どもに信頼感を持たせる先生であってほしいと思います。

先生としての自覚

このことは、幼稚園の先生に限ったことではありませんが、教育に携わるものは、古い表現ではありますが「天職」といった自覚がなければ、決してよい教育ができないとおもいます。

特に現段階では、その地位や待遇の上で報いられることの少ない幼稚園の先生は、権利の主張に囚われている一部教育者のような気持では、よい教育は望み得られないと思います。

一人ひとりの子どもへの愛情に燃えて、これを正しく育てることが根本であるということを忘れてはいけなさと存じます。

適応性

職業生活に入ると、その生活は複雑となり、いろいろな場面において、それに適応してゆくことが必要であります。

殊に幼稚園は、地域、設備、施設などの差が非常に大きい現状でありますので、自分のおかれた環境で、如何にして教育の効果を挙げるかということを真剣に考えて、若い情熱を生かしてゆくことが大切だと思います。

素直さ

子どもに素直さをもたせたいと思うとき、先生がまず素直であ

りたいと思います。

先生にもし間違いがあれば、訂正したり、詫びたりして、少しでもごまかさないということが大切だと思います。

環境に敏感であること

雨や風が強いとき、子どもがどうしてくるかと考えたら、先生の足も自然と早くなって、朝の挨拶もこれに相応しいことばから始ってゆくと思います。

部屋の飾りも、いつまでも入園当時と同じであっては困りません。

以上は単なる一例にすぎませんが、自然の変化や、周囲の事情に敏感であってほしいと思います。

無駄と楽しみ

あまり合理的にのみ物を考えては、きゅうくつになります。

幼児の遊びの場において、大いに無駄と楽しみをつくるようにしたいものです。

その雰囲気の中に、先生もとけこまれるような童心をもつていたいと思います。

人との和

お互いに人の立場を理解して、それぞれの特色をもって活動し、相互の力を出し合って、お互いの仕事の向上を図るように心がけたものです。

人と人との和とは、単に親しむ、争わないという面ばかりではなく、協力してゆく積極性がなければならぬと思います。

独善的でないこと

教育は単なる理論ではありません。理論と実際と融合したものでなければならぬと思います。

実際教育に当って、指導してもらふ人のあることは、幸なことです。

経験者にものをきくということは、明日の自分に大きな力を増すことです。

個性的であること、独善的であることとを間違わないようにしたいと思います。

すき間を大切に

クラスは誰でも全力を挙げてやりますが、クラスとクラスの間には、お互いにゆずり合って「すき間」を生じる傾向があります。

共同の庭、廊下、遊具など、誰の責任ともつかないところに

「すき間」ができます。

できるだけ気をつかって、この「すき間」を埋めるようにつとめたいものです。

それが大切な教育の場となることがあるということを心してほしいものであります。

創意、工夫を心がけること

環境の設定においても、子どもの生活に対しても、ささやかな創意、工夫で、大きな教育的効果が上る場合があります。

教育に生氣をもたせる為にも、マンネリズムに陥らぬよう、たえず研究意欲を旺盛にして、創意、工夫につとめることが肝要です。

以上私の経験を通じて感じていることを、羅列してみました。

平凡な事柄ではありますが、これを実践することは容易ではありません。

子どもに接しているとき、その人自身からにじみ出るものが強く影響するものであることを思うとき、先生は、自分自身の向上に努力すべきだと思います。

要するに教育は、理論や指導技術と相まって、教育者自身の心構え、熱意が大きな力を持つものであることを、深く深く心に刻んでおいていただきたいと存じます。

終りに、皆様の若い教育熱にもえた新しい力が、明日の幼児教育のために春風をもたらす事を大いに期待しております。(三八、二一、二八)

(洗足学園幼稚園)